

日本在宅 医学 会誌

Vol.5 No.1

The Japanese Academy of Home Care Physicians

巻頭言

日本在宅医学会の誇るべき在り方 在宅患者家族にも支えられて

佐藤 智

第5回日本在宅医学会大会

特別講演 誇り・役割・ぬくもり 在宅ケアとQOL・世界の試みと日本の挑戦と 大熊由紀子

特別講演 The Challenge in Caring for Patients with ALS at Home in the United States 三本 博

シンポジウム 難病とは 司会：齋藤 豊和

(シンポジスト：川村佐和子・土橋 正彦)

シンポジウム 在宅ケアにおける患者（家族）と医療者の満足度 司会：石垣 泰則

(シンポジスト：今中 雄一・島内 節)

シンポジウム 在宅医療における医師の役割 司会：山中 崇

(シンポジスト：堀越由紀子・平原佐斗司・中山 康子)

ワークショップ 在宅医療時の処置の工夫と実際 司会：大城 一・磯沼 弘

(シンポジスト：中井 滋・大石 英人・城谷 典保)

ワークショップ 難病の在宅ケアの実際：施設ケアと在宅ケアのターニングポイント 司会：平原佐斗司

(シンポジスト：荻野 裕・太田 秀樹・宮川 哲夫)

教育講演 皮膚と排泄について 松尾美由起・原 行弘

教育講演 脳卒中後遺症の管理 長谷川 幹・堀口 利之

教育講演 緩和ケア 蘆野 吉和・広瀬 寛子

研究報告（一般演題）

日本在宅医学会認定専門医制度規程.....95

投稿承諾書.....100

投稿規定.....99

編集後記.....103

日本在宅医学会

巻頭言

日本在宅医学会の誇るべき在り方 在宅患者家族にも支えられて



佐藤 智 日本在宅医学会会長

最近嬉しいことが二つありました。

一つは昨年2月の初めに、在宅医療を以前から実践している会員の友人Wさんから突然電話がありました。「末期がんの夫人を在宅で診させて頂き、先日なくなられました。そのご主人から、自宅で最後まで家内を看取ることの出来た感謝の気持ちを《在宅医学の医師会》に捧げたい、といわれご寄付を頂いたので、日本在宅医学会で受けてほしい」ということでした。有り難く学会への寄付として頂きました。

もう一つは今年の4月、長崎県の友人の会員Iさんから「東京の方が長崎で末期がんになられ、最後はどうしても生まれ故郷の東京に帰りたいと言われるので、飛行機で静かにお運びするからターミナルを診て欲しい」と連絡がありました。東京にいる私たちの会員でお引き受けし、ご自宅で最後を迎えられました。われわれ在宅医学会の連携でスムーズに進んだことを、ご遺族も感謝してくださり学会にご寄付を頂きました。

現在の医学関係の学会で、このように患者ご家族が直接学会にご寄付をくださるケースは非常に稀であると思います。従来も、病気の治療法の研究のために「疾病の友の会」などがその疾病の医学会に寄付される話は聞きますが、今回のように個人の方がご寄付下さるのは「在宅で終末を迎えられた感謝を少しでも多くの方と分かち合いたい」というお気持ちの現れだだと思います。従来ですと、ご遺族は感謝の気持ちを主治医に捧げますが、今回の患者さんにご遺族はWさん、Iさんの働きを通して「最期を自宅で静かに送れるような仕組みが日本に拡がって欲しい」と思われたのでしょう。私は会長として丁寧なお礼を申し上げましたが、Wさん、Iさんが患者さん、ご家族に日本在宅医学会のことをお話し下さりご寄付の道を開いて下さったことを心より感謝し、嬉しく思います。

この学会は、日本に本当の意味の「在宅医学、在宅医療」が拡がり、それらの質が向上することを願って始められましたが、ともすると医療者の側に目をむけた活動でした。今回、具体的に在宅医療を受けられた患者さん方からご寄付を頂き、この学会の中に、こうした善意をお受けし、それに報いるための仕組みを作ってゆきたいと思います。

実は、現在までもこの学会の活動を支えているのは「会費収入」だけではなく、善意のご寄付（財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団など）ですが、個人のご遺族からのご寄付によるものは今回始めてでした。このようなことはこの学会でこそありうる「特記すべきこと」だと思います。ご遺族のご意思を今後も生かし、在宅の患者さん、ご家族を本当に支えることの出来る団体に成長させてゆきたいと思います。